

## 日蓮文書の研究 ( 3 )

小 林 正 博

今回は特に、「花押」と「恐々謹言」について作成した一覧表にもとづき、これまでの通説に対する疑点を指摘していきたい。

### [ 1 ] 花押について

花押については、日蓮文書の述作年代（以下 系年と表記する）を決める有効な手がかりとされ、山川智応、鈴木一成、山中喜八などによって一定の成果が発表されてきた。

山川智応はバン字からボロン字へと変遷していることを指摘し（下図左参照）、その境目が弘安元年（1278年）5月か6月ごろと推定した。鈴木一成は、バンとボロンの最末字に付く点＝アヌスヴァーラの形に着目し、<sup>かぎて</sup> 鍵手と<sup>わらびて</sup> 蕨手とに大別し（下図右参照）、90の花押を系年順に並べている。（『日蓮聖人消息花押集』『大崎学報』102号 1954年）また、山中喜八は花押による系年研究を更に進め、山中自身が編纂した『日蓮大聖人御真蹟対照録』（1968年）で提示した系年にもとづき、118の花押を順番に並べている。（『日蓮聖人真蹟集成』第五巻所収1977年）

【バン字 ボロン字】



【鍵手】



バン字鍵手

【蕨手】



ボロン字蕨手

( 2 )

本稿では、これら先学の業績を踏まえながら、花押に型名をつけて系年の幅を確定し(表1)、「花押による日蓮文書の系年順一覧」(花押 全117点)を花押写真入りで作成し(表2)提示する。

表1 花押タイプ名と系年期間

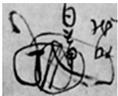
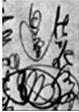
花押タイプ名	文書の系年期間	本尊の系年期間	文書花押写真例
バン読点型	1268-73年	1271-72年	
バン鍵型	1273-77年	1274-76年	
バン長伸型	1277-78年	1276-78年	
ボロン○型	1278-80年	1279-81年	
ボロンc1型	1279-81年	1281年に一幅のみ	
ボロン蕨型	1278-82年	1278-82年	
ボロン蓮V型	1281-82年	なし	

表1における系年期間の設定は、始まりと終わりの系年幅を限定的に決定したことをお断りしておく。タイプがわかれば、その系年期間内に書かれたことがかなりの確率で言い切れる系年判定基準表と考えていただければよい。この中で「文書の系年期間」の項は、系年が確定している文書の花押を中心に割り出し、「本尊の系年期間」の項は、本尊に書かれた年月日から推定したものである。

なお本尊でのボロン字はほとんど蕨型で○型は少なくCI型は一例しかない。ボロン蓮V型とは、日蓮の蓮のしんじょうの形がV字型になっている花押を示しており、文書にのみ現われ本尊には見られない。

また「文書の系年期間」と「本尊の系年期間」の間には多少のずれがあり、特に本尊のボロン字はほとんど蕨型ということもあって「本尊の系年期間」は系年判定の基準とすることはむずかしい。

表2は、現存し管見できるすべての花押118点について、タイプ別に並べたものである。なお配列の順番は表1のタイプ別の「文書の系年期間」を基にし、昭和定本、対照録、御書全集の三つの系年を「系年」の項に列挙し、これも合わせて参考にしながら並べている。しかし、はっきりと述作年を確定することは困難であり危険を伴う。したがって配列の順序は、前後一年位の変動の可能性を含みつつ決めていったものであることをお断りしておく。

あくまで表2は、どの文書に系年上の問題点があるかを見いだすために作成したものであるため、配列の順番についての詳述は別の機会を期したい。

（注）「おけ ひさご御書」の花押は真偽未決のためこれを除外している。

この花押（写真①）の「ボロン字」の下部に縦の線が欠けている



①



②

( 4 )

ポロン字は普通以下の写真のようになる。



またポロン字の上の点（アヌスヴァーラ）の形は②となっているが、ポロン字でこのような終筆は存在しない。また「おけひさご御書」の「ご」は誤読で「おけひさぐ御書」と直すべきである。

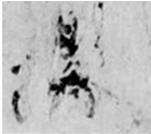
表 2 - 1 バン字の花押一覧（系年の下線は花押系年から逸脱するものを示す）

昭和定本No. 御書全集頁 御書名 真蹟集成巻頁 月/日	系年 昭定 対照録 御書	系年期間 花押の型	花押写真	備考
4 9 3 3 安国論御勘由来 2042 4/5	1268 1268 1268	1268-73 バン読点型		
7 4 1 5 1 5 上野殿母尼御前御書 4092 12/22	1270 1268 <u>1275</u>	1268-73 バン読点型		はっきり した読点 型
6 4 1 2 6 4 御輿振御書 4093 3/1	1269 1269 <u>1264</u>	1268-73 バン読点型		

6 6 問注得意抄 2096	1 7 8  5/9	1269 1269 1269	1268-73 バン読点型		
6 7 富木殿御消息 4095	9 4 9  6/7	1269 1269 1269	1268-73 バン読点型		
4 3 5 御衣布給候御返事 5075	なし	文永 1271 なし	1268-73 バン読点型		
8 6 土木殿御返事 4103	9 5 0  9/14	1271 1271 1271	1268-73 バン読点型		
8 8 五人土籠御書 4105	1 2 1 2  10/3	1271 1271 1271	1268-73 バン読点型		二重線に 見えるが 鍵には見 えない
8 9 転重軽受法門 2104	1 0 0 0  10/5	1271 1271 1271	1268-73 バン読点型		

( 6 )

9 2 寺泊御書 2113	9 5 1  10/22	1271 1271 1271	1268-73 バン読点型		
1 0 1 富木殿御返事 4114	9 6 2  4/10	1272 1272 1272	1268-73 バン読点型		
1 0 6 真言諸宗違目 2144	1 3 9  5/5	1272 1272 1272	1268-73 バン読点型		
1 0 8 安国論別状 4094	3 5  5/26	1272 1269 1272	1268-73 バン読点型		
1 0 9 弁殿御消息 4121	1 2 2 3  7/26	1272 1272 1272	1268-73 バン読点型		かすれ 読点のよ うだ
1 7 0 曾谷入道殿許御書 1046	1 0 2 6  3/10	<u>1275</u> <u>1275</u> <u>1275</u>	1268-73 バン読点型		読点から 鍵への移 行期か

1 2 0 妙一尼御返事 4123	なし 4/26	1273 1273 なし	1268-73 バン読点型		
1 1 9 観心本尊抄送状 4036	2 5 5 4/26	1273 1273 1273	1268-73 バン読点型		
1 2 6 土木殿御返事 2189	9 6 3 7/6	1273 1273 1273	1273-77 バン鍵型		
2 2 2 弁殿御消息 4186	1 2 2 5 7/21	<u>1276</u> <u>1276</u> <u>1276</u>	1268-73 バン読点型		読点型は 建治期に ない
1 2 9 弁殿尼御前御書 2123	1 2 2 4 9/19	1273 1273 1273	1273-77 バン鍵型		鍵らしき 跡が見え る
1 3 1 土木殿御返事 4127	9 6 4 11/3	1273 1273 1273	1273-77 バン鍵型		

( 8 )

1 3 2 乙御前母御書 4126	1 2 2 2 11/3	1273 1273 1273	1273-77 バン鍵型		
1 4 0 法華行者値難事 2197	9 6 5 1/14	1274 1274 1274	1273-77 バン鍵型		鍵のよう に見える
1 4 4 富木殿御書 4128	9 6 4 5/17	1274 1274 1274	1273-77 バン鍵型		一筆書き 風
1 4 6 富木尼御前御返事 4143	なし	1274 1275 なし	1273-77 バン鍵型		
1 4 7 上野殿御返事 4130	1 5 0 7 7/26	1274 1274 1274	1273-77 バン鍵型		行間に傾 けて花押 を挿入 鍵型
1 6 2 富木殿御返事 2127	9 6 8 2/7	1275 1275 1275	1273-77 バン鍵型		

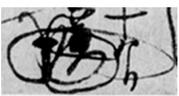
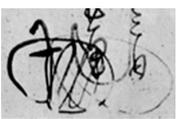
163 可延定業書 2239	985	1275 1275 <u>1279</u>	1273-77 バン鍵型		
65 弁殿御返事 4142	なし 3/10	<u>1269</u> 1275 なし	1273-77 バン鍵型		
179 さじき女房御返事 4235	1231 5/25	1275 1277 1275	1273-77 バン鍵型		紙奥切断 のため鍵 の先端が 抹消か
180 妙一尼御前御消息 2245	1252 5/	1275 1275 1275	1273-77 バン鍵型		
断簡86 5217	なし 6/6	文永末 1275 なし	1273-77 バン鍵型		
182 国府尼御前御書 2252	1324 6/16	1275 1275 1275	1273-77 バン鍵型		 かすかに鍵 が見える

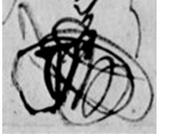
(10)

1 8 3 三三蔵祈雨事 5143	1 4 6 8 6/22	1275 1275 1275	1273-77 バン鍵型		 不鮮明
1 8 5 南条殿御返事 5143	1 5 4 1 7/2	1275 1275 1275	1273-77 バン鍵型		
1 8 6 大学三郎殿御書 2227	1 2 0 3 7/2	1275 1275 1275	1273-77 バン鍵型		
1 8 7 高橋入道殿御返事 4174	1 4 5 8 7/12	1275 1275 1275	1273-77 バン鍵型		
1 9 5 御衣並単衣御書 2117	9 7 1 9/28	1275 <u>1270</u> 1275	1273-77 バン鍵型		一筆風な ので読点 型ではな い
断簡 1 9 8 5154	なし 11/5	文永末 1275 なし	1273-77 バン鍵型		

200 強仁状御返事 2218	184  12/26	1275 1275 1275	1273-77 バン鍵型		
211 富木尼御前御書 2260	975  3/27	1276 1276 1276	1273-77 バン鍵型		
215 南条殿御返事 9053	1531  閏3/24	1276 1276 1276	1273-77 バン鍵型		
172 国府入道殿御返事 4178	1323  4/12	1275 1276 1275	1273-77 バン鍵型		
244 中興政所女房御返事 4179	なし  4/12	1277 1276 なし	1273-77 バン鍵型		一筆書き
436 覚性御房御返事 5107	なし  5/5	1276 1277 なし	1273-77 バン鍵型		

( 12 )

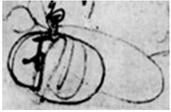
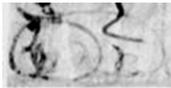
2 1 6 筍御書 4230	なし 5/10	1276 1277 なし	1273-77 バン鍵型		
2 1 7 宝軽法重事 9061	1 4 7 4 5/11	1276 1276 <u>1279</u>	1273-77 バン鍵型		
2 2 1 玄(覚)性房御返事 4181	1 2 8 6 7/18	1276 1276 1276	1273-77 バン鍵型		
3 0 4 芋一駄御書 9063	1 5 8 8 8/14	<u>1278</u> <u>1278</u> <u>1278</u>	1273-77 バン鍵型		ボロンの ように見 えるがバ ン字
2 5 4 兵衛志殿御返事 3005	1 0 8 9 8/21	1277 1277 1275	1273-77 バン鍵型		一筆書き
2 3 2 道場神守護事 2210	9 7 9 12/29	1276 1276 1276	1273-77 バン鍵型		

159 大田殿許御書 2283	1002 1/24	<u>1275</u> <u>1275</u> <u>1275</u>	1277-78 バン長伸型		長伸型は 建治3年 弘安元年 に集中
243 乗明聖人御返事 2273	1012 4/12	1277 1277 1277	1277-78 バン長伸型		
248 兵衛志殿御返事 4269	1104 6/18	1277 1277 <u>1281</u>	1277-78 バン長伸型		
252 上野殿御返事 4311	1512 7/16	1277 1277 <u>1275</u>	1277-78 バン長伸型		
255 富木殿御書 2205	969 8/23	1277 1277 <u>1275</u>	1277-78 バン長伸型		
266 兵衛志殿御返事 4267	1090 11/20	1277 1277 <u>1275</u>	1277-78 バン長伸型		

(14)

239 現世無間御書 4272	1302 2/13	1277 1278 1277	1277-78 バン長伸型		
277 始聞仏乘義 3023	982 2/28	1278 1278 1278	1277-78 バン長伸型	 	
280 諸人御返事 1235	1284 3/21	1278 1278 1278	1277-78 バン長伸型		
283 檀越某御返事 2287	1294 4/11	1278 1278 1278	1277-78 バン長伸型		
289 霖雨御書 4268	1285 5/22	1278 1277 1278	1277-78 バン長伸型		
(バン系年不明)					
断簡16 5225	なし 10/3	建治 1276 なし	1273-77 バン 型は不明		

表2-2 ボロン字の花押一覧

昭和定本No. 御書全集頁 御書名 真蹟集成巻頁	系年 昭定 対照録 御書	系年期間 花押の型	花押写真	備考
293 1245 日女御前御返事 4274 6/25	1278 1278 1278	1278-80 ボロン○型		
294 995 治病大小権実違目 3037 6/26	1278 1278 <u>1282</u>	1278-80 ボロン○型		
295 1178 中務左衛門尉殿御返事 3010 6/26	1278 1278 1278	1278-80 ボロン○型		
296 1097 兵衛志殿御返事 4275 6/26	1278 1278 1278	1278-80 ボロン○型		
299 1547 種種物御消息 4304 7/7	1278 1278 1278	1278-81 ボロン 型不明		ボロンの 上部丸味 なし

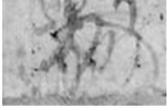
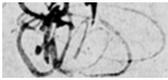
( 16 )

3 0 2 千日尼御前御返事 3061	1 3 0 9 7/28	1278 1278 1278	1278-80 ポロン○型		
3 1 8 兵衛志殿御返事 4295	1 0 9 8 11/29	1278 1278 1278	1278-80 ポロン○型		
4 4 0 出雲尼御前御書 5142	なし 12/1	1278 1278 なし	1278-81 ポロン長伸 型 異例		
図 2 3 秀句十章抄 3193	なし	1278 1278 なし	1278-81 ポロン蕨型		一筆書き
3 2 5 上野殿御返事 4302	1 5 5 4 1/3	1279 1279 1279	1278-81 ポロン蕨型		一筆書き
4 3 7 越後公御房御返事 5121	なし 1/8	1279 1279 なし	1278-80 ポロン○型		

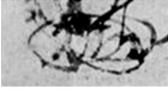
272 松野尼御前御返事 5040	1396 1/21	1278 <u>1281</u> 1279	1278-80 ボロン○型		
328 孝子御書 4305	1100 2/28	1279 1279 1279	1279-81 ボロンCL型		
331 陰徳陽報御書 4309	1178 4/23	1279 1279 1279	1278-80 ボロン○型		
断277 5157	なし 5/23	弘安 1279 なし	1278-81 ボロン蕨型		
374 孟蘭盆御書 4329	1427 7/13	1280 1279 <u>1277</u>	1278-80 ボロン○型		
断238 5125	なし 7/16	弘安 1279 なし	1278-81 ボロン蕨型		御本尊風

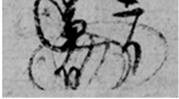
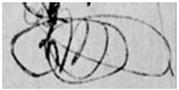
( 18 )

3 3 7 乗明上人御返事 4330	なし 7/27	1279 1279 なし	1278-81 ポロン蕨型		御本尊風
3 8 1 光日尼御返事 4331	9 3 4 9/19	1280 1279 1280	1279-81 ポロンCL型		
4 3 8 伯耆殿並諸人御中 5123	なし 9/26	1279 1279 なし	1279-81 ポロンCL型		
3 8 5 兩人御中御書 4341	1 1 0 1 10/20	1280 1280 1279	1279-81 ポロンCL型		
3 1 0 常忍抄 3130	9 8 0 10/1	1278 1279 <u>1277</u>	1278-80 ポロン○型	 	
3 4 3 聖人御難事 3142	1 1 8 9 10/1	1279 1279 1279	1278-80 ポロン○型		

3 1 1 初穂御書 9269	1 5 9 9 10/21	1278 1280 1278	1278-80 ボロン○型		
断 2 7 8 5158	なし 10/26	弘安 1279 なし	1278-82 ボロン摩耗		解読不能
3 5 0 上野殿御返事 9070	1 5 6 0 11/6	1279 1279 1279	1278-80 ボロン○型		
3 5 1 富城殿御返事 5032	9 8 7 11/25	1279 1280 1279	1278-81 ボロン蕨型		
3 5 2 富城殿女房尼御前御返事 5031	9 9 0 11/25	1279 1280 1279	1279-81 ボロンCL型		御本尊風
3 5 3 兵衛志殿女房御返事 5033	1 1 0 8 11/25	1279 1280 1279	1278-80 ボロン○型		 一筆書風

(20)

3 5 7 上野殿御返事 9074	1 5 6 1 12/27	1279 1279 1279	1279-81 ボロンCL型		
3 2 4 十字御書 5037	なし 12/21	1278 1280 なし	1279-81 ボロンCL型		左寄り CLのよ うに見え る
図 2 5 一代五時鶏図本圀寺 3250	なし	1280 1279 なし	1278-81 ボロン蕨型		花押のみ が書かれ ている
3 6 1 慈覚大師事 3178	1 0 1 9 1/27	1280 1281 1280	1278-81 ボロン蕨型		
3 6 4 富城入道殿御返事 3165	なし 4/10	1280 1281 なし	1278-81 ボロン蕨型		御本尊風
4 4 1 かわいどの御返事 5144	なし 4/19	1281 1280 なし	1279-81 ボロンCL型		御本尊風

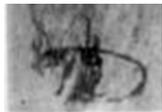
断 2 0 5 5127	なし 5/12	1280 1280 なし	1278-80 ボロン○型		
断 2 3 0 5128	なし 5/22	<u>1281</u> 1280 なし	1278-80 ボロン○型		
3 6 7 諸経と法華経と難易の事 1232	9 9 1 5/25	1280 1280 1280	1278-80 ボロン○型		
3 7 0 太田殿女房御返事 3163	1 0 0 5 7/2	1280 1280 <u>1275</u>	1279-81 ボロンCL型		
3 7 1 千日尼御返事 5023	1 3 1 8 7/2	1280 1280 1280	1279-81 ボロンCL型		一筆書き が左から 入るのは 特殊
3 7 9 上野殿御書 9080	1 5 6 7 9/6	1280 1280 1280	1279-81 ボロンCL型		

( 22 )

3 8 2 大尼御前御返事 4335	9 0 8 9/20	1280 1279 1280	1279-81 ボロンCL型		
3 8 8 上野殿母御前御返事 5028	1 5 6 8 10/24	1280 1280 1280	1279-81 ボロンCL型		
4 1 5 上野尼御前御返事 5029	1 5 8 0 11/15	1281 1280 1281	1279-81 ボロンCL型		
3 9 3 智妙房御返事 2294	1 2 8 6 12/18	1280 1280 1280	1278-80 ボロン○型		
3 9 9 十字御書 9089	1 4 9 1 1/5	1281 1281 1281	1279-81 ボロンCL型		
4 0 0 上野尼御前御返事 9097	1 5 7 5 1/13	1281 1281 1281	1278-81 ボロン破格		

断 2 6 6 5206	なし 3/21	弘安 1281 なし	1281-82 ボロン蓮V 型		○とも CLとも 判定しが たい
4 4 3 御所御返事 5145	なし 7/25	1281 1281 なし	1281-82 ボロン蓮V 型		
3 8 9 富木殿御返事 3183	9 7 8 11/29	<u>1280</u> 1281 <u>1276</u>	1281-82 ボロン蓮V 型		q のよ うな形に なってい る
4 1 8 上野殿母尼御前御返事 9137	1 5 8 3 12/8	1281 1281 1281	1281-82 ボロン蓮V 型		Cがq のよう になっ ても どる
4 2 5 来臨曇華御書 (内記左近) 1238	1 3 0 0 1/14	1282 1282 不明	1281-82 ボロン蓮V 型		
4 0 1 栈敷女房御返事 5043	1 2 3 2 2/17	1281 1282 <u>1278</u>	1281-82 ボロン蓮V 型		

(24)

4 2 9 法華証明抄 1239	1 5 8 6  2/28	1282 1282 1282	1281-82 ボロン蓮V 型		
判定不能					
断 1 0 7  5151	なし	身延期 1274 なし	摩耗不明		

「系年 昭定 対照録 御書」の項で系年に下線が引いてあるのは、花押の型から推定した系年期間に収まらないものである。その中でも三書すべての系年に対して下線が引かれている文書は、これまでの通説の系年について再検討を喚起するものである。

すなわち①曾谷入道殿許御返事(1026頁)②弁殿御消息(1225頁)③大田殿許御書(1002頁)④芋一駄御書(1588頁)の四つの文書である。

紙数の都合上、詳述することはできないが、多少それぞれの文書の本文の内容にも触れながら系年再検討の根拠を要略して示しておく。

表3 御書名 系年通説 系年新説

①「曾谷入道殿許御返事」 建治元(1275)年三月十日 文永十(1273)年  
バン読点型から鍵型への移行期と考えられる。御本尊での明確なバン  
鍵型は文永十一(1274)年からなのでそれ以前である。文永十一年三月  
だと佐渡流罪赦免直後であり、考えにくい。内容からは「二の日」  
(1039頁)が出現していないとあり、文永十一年正月に出現したと記す  
「法華取要抄」との関係から、文永十(1273)年が妥当である。

表3	御書名	系年通説	系年新説
②	弁殿御消息	建治二(1276)年七月二一日	文永九(1272)年 あるいは十(1273)年

建治期にバン読点型はない。内容からは「紙なくして一紙に多く(真蹟は「多人」)の事を申すなり」(1226頁)とあり、佐渡流罪中の可能性が高い。七月の書なので文永九年か十年に絞り込める。

③	太田殿許御書	建治元(1275)年正月二十四日	建治三(1277)年 あるいは四(1278)年
---	--------	------------------	----------------------------

バン長伸型なので建治三年か四年が妥当である。内容的にも智証批判に言及しているので建治元年六月の「撰時抄」以降である(撰時抄には智証批判がない)。

④	芋一駄御書	弘安元(1278)年八月十四日	建治三(1277)年
---	-------	-----------------	------------



この花押は、従来ボロン字と見られていた。しかし、よく見ると右側のmのように見える書き出し部分がバン字に突き出るように重なっていることがわかる。それでボロン字と見誤ったのである。鈴木一成はこの花押を見ないまま弘安元年とし、山中喜八は見ているながらボロン字と判定してしまっている。

本文の内容からは門下からの供養に対して「法華経に申しあげ」(1588頁)という表現がある。この表現については建治期が「仏」「仏前」弘安初期から「法華経」さらに「法華経の御宝前」と変遷していくという考え方にも再考の余地があることになる。

鈴木一成がボロン蕨型初期と誤認した本書は、バン鍵型最終期の建治二(1276)年か三年とするのが妥当と考える。

## [2] 恐々謹言について

(1)真蹟において「恐々」と「恐々謹言」の字形は判別できるのか

	昭定	御書
恐々謹言	58	0
恐恐謹言	24	55
恐々	13	1
恐恐	0	16
計	95	72

(御書それぞれの異同については本稿末に対照表を掲載したので参考にいただきたい)

まず、この表から「恐々謹言」「恐恐謹言」「恐々」「恐恐」の4種類の表記が混在していることがわかる。具体的には、昭和定本では「恐々謹言」が御書全集では「恐恐謹言」が最も多いこと。昭和定本は「恐々」と記し「恐恐」はなく、御書全集は「恐恐」と記し「恐々」は1箇所だけあることが指摘できる。

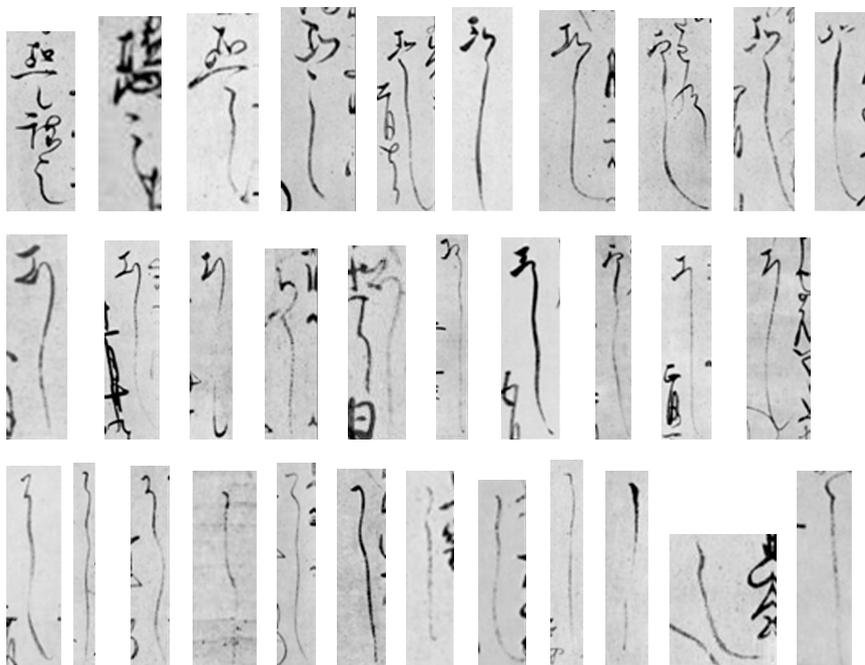
これらは編集上の表記の仕方の問題であり統一がなされれば解消することである。つまり昭和定本では、24箇所の「恐恐謹言」をすべて「恐々謹言」にすればよいし、御書全集では、1箇所だけある「恐々」は「恐恐」にすれば表記上の混乱は解消する。

しかしここで問題にしたいのは、昭和定本と御書全集で「恐々謹言」「恐恐謹言」の4字表記と「恐々」「恐恐」の2字表記が必ずしも一致していないことである。つまり片方は4字でもう一方は2字という違いがあり、それは14箇所にも及んでいる。このことは真蹟の文字から「恐恐」と「恐恐謹言」の違いを判別することが困難であることを窺わせているといえよう。

そこで真蹟写真を文字の形から、以下の4種類に大別して列挙してみた。

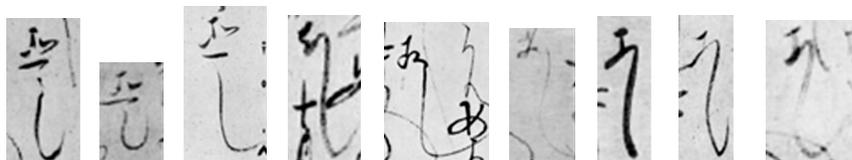
## ①昭和定本「恐々謹言」か「恐恐謹言」・御書全集「恐恐謹言」

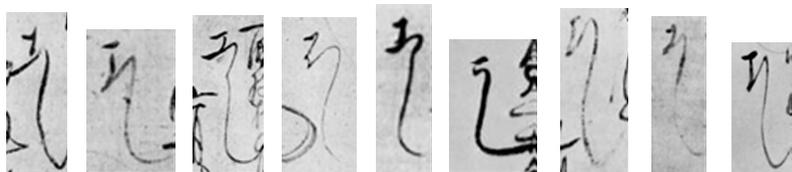
写真数は多いが、いずれも「恐々謹言」か「恐恐謹言」の4文字で翻刻されるグループである。



以上のように類似したものを分類し三段に分けてみた。一段目は最初の「恐」が比較的判読しやすいもの、二段目はそれがややゆくずれ、三段目は極端にくずれているものということになる。特に三段目は、消息の末文と日付・花押の間に書かれているから「恐恐謹言」だとわかるという類である。

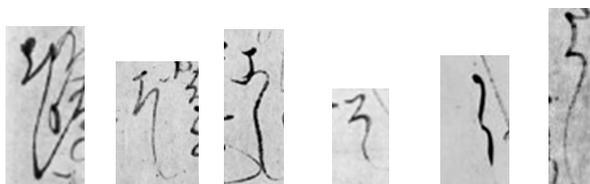
次の写真群は、同じく①グループに属し「恐々謹言」や「恐恐謹言」の4文字で翻刻されているが、やや短めに書かれており「恐恐」や「恐々」と翻刻してもよさそうなものとして別掲した。





次は昭和定本「恐々」・御書全集「恐恐」の2文字で一致しているものを列挙する。

②昭和定本「恐々」・御書全集「恐恐」

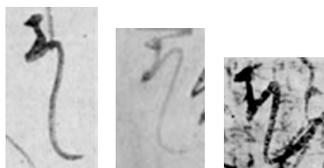


昭和定本番号 370 272 221 289 203 299

左の2つは①の4文字グループの最後に挙げたやや短めのものと同様である。左から3番目は明らかに①グループの二段目と同じである。右の3つは①グループには類似したものがない。いずれにしても、この②グループの6つから共通性を見いだすことはできないのである。

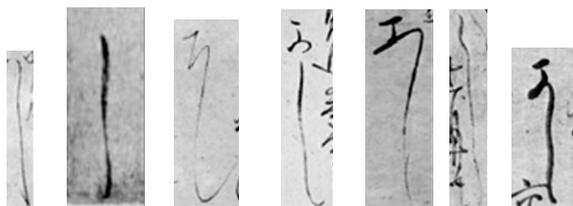
さらに昭和定本と御書全集で食い違う例を写真で見えていくことにする。

③昭和定本「恐々」・御書全集「恐恐謹言」・・・3箇所



昭和定本番号 248 230 311

## ④昭和定本「恐々謹言」・御書全集「恐恐」（うち「恐々」1箇所）・・・11箇所



昭和定本番号 074 067 389 163 361 353 295



272 374 382 367

③の3つの写真は昭和定本が「恐々」としており、これらは①の最後に挙げたやや短めのものと同じと考えてよい。さらに④の最後の4つも同様である。そこでこれらを「恐々」と解釈するという案が浮上してくる。これなら文字の形から見た「恐々」と「恐恐謹言」の判定基準として妥当性がありそうだ。

しかし、「やや短い」というあいまいさからまぬがれることはできないのである。事実、真蹟の文字は、行末にまだスペースが残っていると終筆が長くなるという傾向がある。逆にスペースがないと、「やや短」くなる場合もある。要するに、長さから「恐々」か「恐恐謹言」かを、峻別するのは無理なのである。とすれば、すべて「恐々謹言」で統一することが翻刻上の問題解消につながると思う。消息の宛先である門下等に対する日蓮の思いやりの深さは、字形がどうであろうと「恐々謹言」のつもりで記したと考えたい。単なる古文書の解説というより、御書をどう拝するかという視点で考えることも大事なのだと思う。

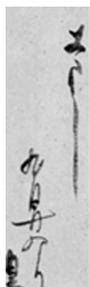
## (2) 恐々謹言に関する解説上の問題点

ここでは(1)で列挙した写真群を総覧して、気がついた問題点を指摘する。対象とするのは、表3（本稿末）の備考欄に【1】から【5】を記した箇所である。

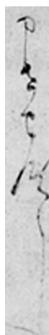
該当箇所拡大写真は次のようになる。



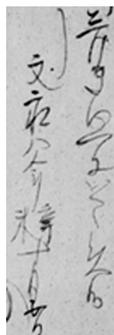
【1】 拡大



【2】 拡大



【3】



【4】



【5】

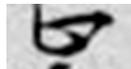
昭和定本	止了	恐々謹言	恐恐謹言	恐々謹言	恐恐謹言
御書全集	恐恐謹言	恐恐謹言	なし	なし	なし
真蹟集成	2巻188頁	2巻117頁	5巻31頁	2巻104頁	4巻235頁

【1】は「恐恐謹言」ではなく「止了」(止め了ぬ)である。【1】は「御返事申之故委細止了」と解説すべきで、「御返事申之故委細恐恐謹言」では文意が通じない。

「止」の写真例を見ても「止」と読むのがよい。



止



止

この文字は一見すると「恐」のように見えるが、先に挙げた多くの写真群の中に類似するものはない。

【2】については「恐恐謹言」と読めるのかどうか、問題提起しておきたい。初めの文字を「恐」と読むことはむずかしい。むしろ「等」と読める。そこで「等云云」の写真と並べて見ると、「等云云 恐恐謹言」と読むことも可能である。



【2】

真蹟集成



等云云

2-227



ク

3-92



ク

5-34

ただ、前文が経論の引用などではないので、「等云云」が書かれるのは不自然である。今は「恐恐謹言」と解釈する通説への疑点として留めておく。

【3】は「申させ給 恐恐謹言」である。

これを御書全集では「申させ給へ」としているが、「へ」だけで、こんなに伸びたくずしになることはない。恐恐謹言が極端にくずされ、長い線になる例は前頁の写真群にも見ることができ、特に①グループ三段目の右端写真とよく似ている。



【3】の写真

①グループ三段目の右端写真



ここは「申させ給 恐恐謹言」とするのが妥当である。

【4】「まげきゆへよと、矣候 恐恐謹言」（しげきゆへにとどめ候 恐恐謹言）と読むべきである。御書全集は読んでいないが、明らかに一本線のくずしによる「恐恐謹言」がある。

【5】「こへ申よ及えすとをほしめすへし」と書いてそのあとにまだ何か書かれている。この部分を御書全集は読んでいないが、次に日付が続くので（【5】

( 32 )

の写真参照)、「恐恐謹言」があると考えるのが妥当である。

以上、今回は「花押」と「恐恐謹言」の文字の形状を取り上げ、そこから派生する問題点をいくつか指摘してきた。日蓮の真蹟の解読は、まだまだ多くの課題を抱えていることは事実である。その総合的な成果をいつの日かまとめ上げたいと考えている。なおその一端を、本年 9 月の印度学仏教学会で発表した  
ので、参照していただければと思う。

表3 恐々謹言の表記 昭和定本と御書全集の比較

昭定 番号	御書 頁	真蹟集 成巻頁	御書名	昭定	御書	備考
0 4 9	35	2042	安国論御勘由来	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 0 6	141	2143	真言諸宗違目	恐々謹言	恐恐謹言	
0 9 6	160	2183	八宗違目抄	恐恐謹言	恐恐謹言	門下代筆
0 4 9	178	2095	問注得意抄	恐恐謹言	恐恐謹言	
0 8 3	179	4106	行敏御返事	恐恐謹言	恐恐謹言	
2 0 0	185	2218	強仁状御返事	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 1 9	255	4036	観心本尊抄送状	恐恐謹言	恐恐謹言	
3 8 2	908	4335	大尼御前御返事	恐々謹言	恐恐	
3 8 1	934	4331	光日尼御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
0 6 7	949	4095	富木殿御消息	恐々謹言	恐々	
1 0 1	962	4114	富木殿御返事	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 2 6	963	2188	土木殿御返事	止了	恐恐謹言	【1】
1 3 1	964	4128	富木殿御書	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 4 4	964	4127	土木殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
1 6 2	968	2127	富木殿御返事	恐恐謹言	恐恐謹言	
2 5 5	970	2204	富木殿御書	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 9 5	971	2117	御衣並単衣御書	恐々謹言	恐恐謹言	等云云【2】
2 1 1	976	2259	富木尼御前御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
2 1 2	978	2268	忘持経事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 8 9	978	3183	富木殿御返事	恐々謹言	恐恐	
2 3 2	979	2210	道場神守護事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 1 0	982	3130	常忍抄	恐々謹言	恐恐謹言	
1 6 3	986	2239	可延定業書	恐恐謹言	恐恐	
3 5 2	990	5031	富木殿女房尼御前御書	恐恐謹言	なし	【3】

3 6 7	992	1232	諸経と法華経と難易の事	恐々謹言	恐恐	
2 9 4	998	3037	治病大小権実違目	恐々謹言	恐恐謹言	
0 8 9	1001	2104	転重軽受法門	恐々謹言	なし	【 4 】
3 7 0	1008	3162	大田殿女房御返事	恐々	恐恐	
2 4 3	1012	2273	乘明聖人御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 6 1	1020	3178	慈覚大師事	恐々謹言	恐恐	
2 5 4	1090	3005	兵衛志殿御返事	恐恐謹言	恐恐謹言	
2 6 6	1093	4267	兵衛志殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
2 9 6	1097	4275	兵衛志殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 1 8	1099	4295	兵衛志殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 2 8	1100	4305	孝子御書	恐々謹言	恐恐謹言	
3 8 5	1101	4342	兩人御中御書	恐々謹言	恐恐謹言	
2 4 8	1104	4269	兵衛志殿御返事	恐々	恐恐謹言	
3 5 3	1108	5033	兵衛志殿女房御返事	恐々謹言	恐恐	
3 3 1	1178	4309	陰徳陽報御書	恐々謹言	恐恐謹言	
2 9 5	1179	3010	中務左衛門尉殿御返事	恐々謹言	恐恐	
3 4 3	1191	3142	聖人御難事	恐々謹言	恐恐謹言	
1 8 6	1205	2227	大学三郎殿御書	恐々謹言	恐恐謹言	
0 8 8	1212	4105	五人士籠御書	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 0 9	1224	4121	弁殿御消息	恐々謹言	恐恐謹言	
1 2 9	1224	2123	弁殿尼御前御書	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 7 9	1231	4235	さじき女房御返事	恐恐謹言	なし	【 5 】
4 0 1	1232	5043	棧敷女房御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
2 9 3	1250	4274	日女御前御返事	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 8 0	1254	2245	妙一尼御前御消息	恐恐謹言	恐恐謹言	
2 8 9	1285	4268	霖雨御書	恐々	恐恐	
2 2 1	1286	4181	覚性房御返事	恐々	恐恐	

3 9 3	1287	2294	智妙房御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
2 8 3	1295	2287	檀越某御返事	恐恐謹言	恐恐謹言	
2 3 9	1302	4272	現世無間御書	恐恐謹言	恐恐謹言	
1 7 2	1323	4178	国府入道殿御返事	恐恐謹言	恐恐	
2 8 4	1335	4226	是日尼御書	恐恐謹言	恐恐謹言	
2 7 2	1396	5040	松野尼御前御返事	恐々	恐恐	
3 7 4	1430	4329	孟蘭盆御書	恐々謹言	恐恐	
2 0 3	1467	9032	減劫御書	恐々	恐恐	
2 1 7	1476	9061	宝軽法重事	恐々謹言	恐恐謹言	
0 7 4	1515	4092	上野殿母尼御前 (止観第五の事)	恐恐謹言	恐恐	
2 1 5	1535	9053	南条殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
1 8 5	1542	5143	南条殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
2 9 9	1549	4304	種種物御消息	恐々	恐恐	
3 2 5	1555	4302	上野殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 5 0	1561	9070	上野殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 5 7	1562	9074	上野殿御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 7 9	1567	9080	上野殿御書	恐々謹言	恐恐謹言	
3 8 8	1573	5028	上野殿母御前御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
4 0 0	1576	9097	上野尼御前御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
4 1 5	1582	5029	上野尼御前御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
4 1 8	1584	9137	上野殿母御前御返事	恐々謹言	恐恐謹言	
3 0 4	1588	9063	芋一駄御書	恐々謹言	恐恐謹言	
2 3 0	1590	9161	閻浮提中御書	恐々	恐恐謹言	
3 1 1	1599	9269	初穂御書	恐々	恐恐謹言	
0 6 5	なし	4142	弁殿御消息	恐々謹言	未収録	
1 2 0	なし	4123	妙一尼御返事	恐恐謹言	未収録	

( 36 )

2 1 6	なし	4230	筍御書	恐々謹言	未収録	
2 9 1	なし	4289	兵衛志殿御返事	恐々謹言	未収録	
3 2 4	なし	5037	十字御書	恐々謹言	未収録	
3 2 6	なし	ナシ	上野郷主等御返事	恐々	未収録	
3 3 7	なし	4330	乗明上人御返事	恐々謹言	未収録	
3 6 4	なし	3165	富城入道殿御返事	恐々謹言	未収録	
4 2 5	なし	1238	内記左近入道殿御返事	恐々謹言	未収録	
4 3 5	なし	5075	御衣布給候御返事	恐々	未収録	
4 3 6	なし	5107	覚性御房御返事	恐々謹言	未収録	
4 3 7	なし	5121	越後公御房御返事	恐々謹言	未収録	
4 3 8	なし	5123	伯耆殿並諸人御中	恐々謹言	未収録	
4 4 0	なし	5142	出雲尼御前御書	恐々謹言	未収録	
4 4 2	なし	ナシ	おけ・ひさご御消息	恐々謹言	未収録	
4 4 3	なし	5145	御所御返事	恐々	未収録	
断230	なし	5128	断簡230	恐々	未収録	
断238	なし	5125	断簡238	恐々謹言	未収録	
断266	なし	5206	断簡266	恐々謹言	未収録	
断277	なし	5157	断簡277	恐々謹言	未収録	
断278	なし	5158	断簡278	恐々謹言	未収録	

(こばやしまさひろ・主任研究員)

## A Study of Nichiren's Writing (3): Chronological Research through His Written Seals

Masahiro Kobayashi

An enormous volume of genuine handwritten texts by Nichiren exists. In recent years, a large number of detailed photographs of original manuscripts have become available, increasing the opportunity to compare print versions of the text with the original.

This article aims to examine the prevailing opinions among experts, based on the list of various types of stylized signatures and closing salutations by Nichiren in his genuine hand written texts which I have collected thus far.